

1. はじめに

日本の貧困について、私が解決に取り組みたい課題は、「若年層の貧困」です。若年層とは、15~24 歳くらいの子どもと大人の間の年齢層のことを指しています。一般的に、子どもの貧困というワードにおける「子ども」というのが 17 歳以下の守られる存在である一方、「若年層」というのは、つい最近まで「子ども」として守られていたが、社会から自立を迫られている存在であると考えます。私自身、高校を卒業して、フリーターやニートとして過ごした時期があり、まさに「若年層の貧困」を経験しました。また、地元である沖縄県でも若年層の貧困問題が深刻であるため、今回このテーマを選択しました。

2. 現状

厚生労働省の「平成 28 年国民生活基礎調査」によると、全国の子どもの相対的貧困率は、2012 年の 16.3% から、2015 年の 13.9% と 2.4 ポイント減少しています。また、最も貧困率の高い沖縄県の子どもの貧困率も、2015 年度の 29.9% から 2018 年には 25% と 4.99 ポイント改善しています。これは、子どもの貧困に対する支援の輪が広まっており、効果が発揮されている結果だと思えます。一方、早稲田大学の橋本先生によると、若年の貧困層、いわゆるアンダークラスの若者は、毎年数十万人増えていると言われています。これによって現在 930 万人いるアンダークラスの数、2025 年に 1000 万人を超える見込みです。就職氷河期の時代に非正規雇用が激増したこと、世代間での学歴や所得階級の連鎖が続いていることによって、若者の貧困層が増加、固定化されたものとみえています。

3. 課題

若年層は次世代の子どもの親になるため、この層で貧困が増大すると、世代間連鎖によってさらに貧困が増えてしまいます。支援の面からいうと、子どもの貧困支援は、応援されやすく急速に支援体制が整ってきているが、若年層の貧困支援が不足しています。子どもの貧困支援をしている NPO 団体によると、若年層に上がる子どもたちにも継続的な支援が必要だが、引き継ぎ先がない、どうすれば良いかわからないなどの悩みがあるそうです。若年層の人々に寄り添って、職業訓練、就職支援などをする福祉的な立場が求められていると思います。